

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

アンケート実施期間:2024年12月

結果公表日:2025年3月27日

回答率

事業所職員: 4名回答、回答率 100%

保護者様: 26名回答、回答率 90%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・訓練室内の配置では、活動ごとに取り組むスペースを確保することで児童が切り替えやすい環境を作ることができている。
- ・教室内備品の配置が一部整備されていないため、療育備品等をスムーズに出し入れできる環境設定をしていく必要性がある。

○業務改善

- ・支援前後にて、職員間で児童の様子や保護者との相談内容を共有することができている。
- ・職員間で、話しやすい環境を全職員が意識することができおり、支援・業務について意見交換を行う機会を毎日設けることができている。

○適切な支援の提供

- ・児童の特性に合わせた支援を提供するため、活動内容を適宜変更して対応することができている。
- ・必要に応じて、パーテーションを使用してクールダウンを促して対応している。
- ・今年度から調理活動やお弁当購入、実験等の支援のバリエーションを増やし、療育の幅をひろげていくことが出来る様に工夫を行っている。

○関係機関や保護者との連携

- ・保護者の希望に合わせて、個別にて詳細に児童の様子や状況を確認している
- ・学校等の関係機関との連携強化を検討中

○保護者への説明責任等

- ・「児童や保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか」という質問では、全職員が「はい」と回答しており、実際に支援の振り返りの際にもその点について話し合うようにしている。

○非常時等の対応

- ・月に一度、地震・火災・水害対応等テーマを設定し、避難訓練を実施している

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・教室のスペースに「狭さを感じられる」というご意見もあったため、教室内配置の再検討を行い、少しでもスペースを確保できるように改善していく。

○適切な支援の提供

・「こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。」という質問項目では、9割の保護者から「はい」と回答をいただいた。
・「一人一人に合うプログラムの時間が足りないと思う」とご意見もあったが、「特性への理解がある」「子供が楽しく課題に取り組めるよう常に考えて下さる」というご意見もいただいた。

○保護者への説明等

・「職員から共感的に支援をされている」「事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がされている」という項目で、9割の保護者から「はい」と回答いただいた。
・事業所内での保護者同士の交流や家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の提供に関しては実施内容や時期について検討していく。

○非常時等の対応

・「事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。」という質問項目では、「わからない」と回答する保護者が数名いたため、教室前の扉等に訓練実施のお知らせを掲示する。

○満足度

・報酬改定に伴い支援形態が変更となったため、「環境の変化」に関するご意見は少なからずあがったものの、「とても安心して楽しく通っている。」というご意見も多くいただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

・避難訓練を毎月一週間通して実施し、多くのご利用者様に参加していただく。
・配置を見直したが、運動時に使用する道具に関しては、活動スペースの隅に置いている形になっている。そのため、お子様の目に触れない位置に道具を収納するスペースを確保する。
・教室職員の専門的な知識の向上のために、定期的に心理士や作業療法士の助言を受けたり、教室内研修を実施する。

○改善できた点・まだ残る課題

・1年の中で全児童が避難訓練に取り組めるようにスケジュールし、事前に支援の予定表の中で「避難訓練日」を掲示およびフィードバック時に保護者へ共有した。フィードバックに参加していない保護者に対しては教室前に分かりやすく掲示およびお手紙にてお知らせをする必要がある。
・支援形態の変更に伴い、支援スペースは広く確保できるようにパーテーションの位置を変更した。さらに収納棚の購入を行い、整備された環境を目指す。
・月1回の頻度で心理士や作業療法士に児童や支援について助言を受けながら教室で共有することができた。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・児童の興味を惹く活動や同じ活動の中でも児童の特性に応じて全員が参加できるように工夫された活動設定がされていることから、多くの保護者から満足度の高い支援提供が行えている。
- ・フィードバック時や個別での相談時に保護者と情報共有を行い、支援に反映することができている。

○改善点

- ・訓練室内の環境整備
- ・非常時対応の周知
- ・全体での専門性向上

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・研修や専門職員の助言を取り入れながら、教室職員全体での専門性の向上を図る。
- ・訓練室内を広く使用できるように療育道具やパーテーションの位置を再検討し、十分に活動ができるスペースを確保する。
- ・非常時対応の周知方法の変更し、利用者全員に対応方法や実施内容について周知する。

○1年間で取り組む具体策

- ・職員の専門性を向上するために、2ヶ月に1回事例検討を実施する。
- ・支援で使用する道具を収納するため棚を設置。棚を含めた訓練室内の配置を再検討し、運動時、製作時など場面ごとで使用する際のスペースは確保されているか職員間で振り返りを行う。
- ・非常時対応について、避難訓練の周知方法をフィードバック時でのお伝えだけでなく、教室扉での掲示および手紙等で事前にお知らせを行える形に変更を行う。